

1. 実況上の着目点

① 対馬付近には前線を伴った低気圧があって東北東進。この低気圧から前線が西日本と東シナ海にのびている。低気圧や前線に向かって下層暖湿気（30日21時の鹿児島の高層観測では850hPa 相当温位 332Kを観測）が流入しており、対流雲が発達し、激しい雨や非常に激しい雨を観測、発雷を検知している。また、鹿児島県には31日未明に竜巻注意情報を発表した。

② 日本の東と日本のはるか東には高気圧があって東へ移動。この高気圧と①の低気圧との間

で気圧の傾きが大きくなっており、南西諸島～西日本では強い風が吹いて、波の高い所がある。

③ 中国奥地の 500hPa 5700m付近にはトラフがあって東南東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の低気圧は、発達しながら日本海～北陸地方を通して31日夜には東北地方へ進み、1日夜には千島の東へ進む。また、1項③のトラフに対応して、1日朝には、東シナ海の前線上に低気圧が発生し、種子島・屋久島付近を通して本州南岸の海上を東北東へ進み、2日朝には関東の東に達する。これら二つの低気圧や前線に向かって下層暖湿気が流入するため、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。南西諸島～西日本では1日にかけて、東日本では2日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。特に二つの低気圧による大雨や前線により、総降水量が多くなる南西諸島や西日本～東日本の太平洋側では、土砂災害の危険度が高まりやすいことに留意。

② 1項②の高気圧と、2項①の二つの低気圧や前線との間で気圧の傾きが大きい状態が続くため、強い風や非常に強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。西日本～北日本では2日にかけて、強風や高波に注意・警戒。

③ 全国的に2日にかけて、850hPaの気温が平年より5～10℃以上高い状態が続く。気温の上昇や2項①の降水の影響で雪解けが進む所がある。北日本～東日本の多雪地では2日にかけて、なだれや融雪に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時から24時間)：東海150、四国130、関東甲信・近畿120mm。② 波浪(明日まで)：関東・伊豆諸島・東海・近畿・四国5、東北4、その他広い範囲で3m。③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「雷と突風に関する全般気象情報」を05時頃発表予定。